
平成24年1月期
(平成23年1月21日～平成24年1月20日)
決算参考資料

平成24年3月1日
(株)サガミチェーン
東証・名証1部上場 コード:9900
設立:1970年3月 資本金:63億300万円

株式会社サガミチェーン

目次

1. 連結対象企業の事業内容	_____	P2
2. 平成24年1月期業績の概況	_____	P2
3. 財政・キャッシュフローの概況	_____	P3
4. 店舗展開の状況	_____	P3
5. 平成24年1月期業績の背景	_____	P4
6. 平成25年1月期業績の予想	_____	P5
7. サガミ中期経営計画について	_____	P6

1. 連結対象企業の事業内容

○連結子会社の対象範囲は4社であります。

[連結子会社]

名称	住所	資本金又は 出資金 (千円)	事業の内容	議決権の 所有割合 (%)
株式会社ディー・ディー・エー	名古屋市守山区	200,000	飲食店の経営 FC店舗への材料提供及 び経営指導	100.0
株式会社サガミサービス	名古屋市守山区	10,000	損害保険及び生命保険 の代理業務 店舗設備のメンテナン ス業務	100.0
株式会社エー・エス・サガミ	名古屋市守山区	70,000	飲食店の経営	100.0
上海盛賀美餐飲有限公司	中国上海市	260,000	飲食店の経営	100.0

2. 平成24年1月期業績の概況

○連結ベースの経営成績

単位 (百万円/円)	平成23年 1月期	平成24年 1月期	前年比 (%)
売上高	20,134	19,561	△2.8
営業利益	△231	146	—
経常利益	△205	149	—
当期純利益	△1,221	△743	—
一株あたり 当期純利益	△50.08	△30.50	—

○単独ベースの経営成績

単位 (百万円/円)	平成23年 1月期	平成24年 1月期	前年比 (%)
売上高	17,532	17,111	△2.4
営業利益	△96	264	—
経常利益	△76	264	—
当期純利益	△1,141	△665	—
一株あたり 当期純利益	△46.80	△27.29	—

○平成24年1月期末の配当について

配当につきましては、平成23年3月2日発表の通り見送ることといたしました。

○株主優遇策について

平成24年1月20日現在に当社株式を一千株以上保有の株主様に対し、1万5千円相当(通期換算 3万円)の株主優待食事券を進呈いたします。

3. 財政・キャッシュフローの概況

○連結財政状態

単位 (百万円/%/円)	平成23年 1月期	平成24年 1月期
総資産	16,092	15,072
純資産	10,152	9,318
自己資本比率	63.0	61.8
一株あたり純資産	415.7	382.2

○連結キャッシュフローの状況

単位 (百万円)	平成23年 1月期	平成24年 1月期
営業活動によるキャッシュフロー	△98	606
投資活動によるキャッシュフロー	△566	98
財務活動によるキャッシュフロー	664	△300
現金及び現金同等物 期末残高	2,614	3,017

○設備投資について

連結設備投資は 214百万円（H23.1実績 858百万円）となりました。

○減価償却費について

減価償却費は 427百万円（H23.1実績 512百万円）となりました。

4. 店舗展開の状況

	平成23年1月期	平成24年1月期			平成25年3月期 計画		
	店舗数	出店	閉店	店舗数	出店	閉店	店舗数
サガミ	131	—	1	130	—	7	123
どんどん庵	76	—	13	63	—	7	56
あいそ家	14	1	2	13	1	2	12
上海盛賀美	5	1	—	6	2	1	7
製麺大学	7	—	3	4	—	—	4
盛賀美SAGAMI	—	1	—	1	2	—	6
その他	11	1	5	7	12	—	16
合計	244	4	24	224	17	17	224

○平成24年1月期の店舗展開の状況について

新店の開店は「上海盛賀美」1店舗に留まりましたが、業態転換として「太きしめん『盛賀美SAGAMI』」と、「カレーうどんと味噌かつ『鹿山食堂』」を出店いたしました。また、フランチャイジーとして、「丸源ラーメン奈良樞原店」を開店いたしました。閉店店舗は、業態転換とボンパナ4店舗の売却を含み、「サガミ」1店舗、「どんどん庵」13店舗、「あいそ家」2店舗、「製麺大学」3店舗、「その他」5店舗であります。これにより期末の店舗数は 224店となりました。

○平成25年3月期の店舗展開の計画について

業態変更を含む新規出店は「あいそ家 1店」「上海盛賀美 2店（内1店舗は移転）」「盛賀美SAGAMI 2店」「その他業態 12店舗」の合計 17店（うち純新店数 8店）を計画しております。一方、業態変更を含む閉店につきましては「サガミ 7店（内業態転換 7店）」「どんどん庵 7店（内業態転換 1店）」「あいそ家 2店」、店舗移転の「上海盛賀美 1店」の合計 17店（内純閉店数 9店）を計画しております。

これにより平成25年1月期末の店舗数は 224店を計画しております。

なお、新規出店等に係る設備投資につきましては、750百万円を計画しております。

5. 平成24年1月期業績の背景

- (1) 平成24年1月期の業績につきましては、減収・増益となりました。売上高は四期連続の減収です。営業利益、経常利益につきましては三期ぶりの黒字となりました。一方で、減損処理と子会社の損失が予想を上回ったため、当期純利益につきましては大幅に改善したものの、五期連続の赤字となりました。
- (2) 平成24年1月期の取り巻く環境は、サブプライム問題、リーマンショックからの回復途上にありながら、3月の東日本大震災に始まり、歴史的な円高やタイ国の洪水、欧州債務危機など、国内景気や雇用環境の先行きに対する不透明感は拭えず、消費支出が持続的に改善するには至っておりません。
- (3) 主力業態「サガミ」の既存店の状況につきましては、客数が前年同期比 0.7%の減少（平成23年1月期は0.2%の増加）となりました。客単価が前年同期比0.3%増となりましたが、現金売上高は 0.4%減となりました。
- (4) 連結売上高につきましては、前年同期比2.8%減収の19,561百万円となりました。又サガミ単体の売上高につきましては、前年同期比2.4%減収の17,111百万円となりました。
- (5) 上半期（平成23年2月期～平成23年7月期）の経常利益は前年同期比 214百万円改善の111百万円損失計上となりました。これに対し、下半期（平成23年8月期～平成24年1月期）は経常利益は140百万円改善の260百万円となりました。これは、売上原価率の改善と人件費及び物件費の改善などが大きく寄与しております。
- (6) 主力業態「サガミ」の売上原価率は、前年同期比1.3%減の29.2%となりました。人件費は0.7%の改善、物件費は0.5%の改善となった事により、販売費及び一般管理費で464百万円の改善となりました。これにより、営業利益は前年同期比360百万円改善の264百万円、経常利益は前年同期比340百万円改善の264百万円となりました。連結経常利益は、前年同期比354百万円改善の149百万円となりました。これは、主力業態「サガミ」の利益改善が大きかった事が、主な要因であります。
- (7) 連結当期純損失は743百万円となり、平成23年8月22日公表の業績予想に対し、443百万円の減益となりました。これは、開店2年以内で減損判定対象外であった「製麺大学5店舗」を、事業計画との乖離が大きい為、戦略的に減損処理を行った事と、子会社の減損損失が想定より増えたためであります。なお、前期末は店舗閉鎖に伴う撤退費用等を特別損失に計上し、当期純損失を 1,221百万円計上しております。このため、前年同期比では478百万円の改善となりました。

6. 平成25年1月期の業績予想

○連結ベースの業績予想

単位 (百万円/円)	第二四半 期累計	通期	前年比 (%)
売上高	9,200	18,800	△3.9
営業利益	0	310	—
経常利益	△10	300	—
当期純利益	△50	200	—
一株あたり 当期純利益	△2.05	8.20	—

○単独ベースの業績予想

単位 (百万円/円)	第二四半 期累計	通期	前年比 (%)
売上高	7,200	14,800	△13.5
営業利益	50	420	—
経常利益	40	410	—
当期純利益	10	330	—
一株あたり 当期純利益	0.41	13.53	—

○連結ベースの業績予想について

- 今後のわが国経済は、円高、電力、増税、欧州債務などの問題を抱えつつも、サプライチェーンの回復、米国経済の回復、復興需要などにより、緩やかではありますが景気回復傾向は持続するとの見方が大勢を占めております。一方、外食産業におきましては、部分的な回復はあるものの外食機会の減少や利用動機の冷え込み、業界内の価格競争は継続するものと思われまます。
- 平成25年1月期の連結売上高につきましては、直近の趨勢に基づき試算し、前年同期比3.9%の減収を見込んでおります。これは、「あいそ家」「製麺大学」の閉店による減収360百万円と、「どんどん庵」の閉店による減収400百万円を見込んだものであります。
- 平成25年1月期の単体売上高につきましては、前年比△13.5%となっておりますが、これは、「あいそ家」「製麺大学」などを、株式会社ディー・ディー・エーに移管したためであり、「サガミ」としては、直近の趨勢に基づき試算し、前年同期比100.0%（客数99.0%・客単価101.0%）の売上高を見込んでおります。
- 平成25年1月期の連結経常利益につきましては、151百万円改善の300百万円を見込んでおります。当期純利益は、943百万円改善の200百万円を見込んでおります。
- 配当につきましては見送る方針であります。

※業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき算出したものであり、実際の業績は今後様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

※決算日変更時(平成25年3月31日)の参考数値

○連結ベースの業績予想

単位 (百万円/円)	第二四半 期累計	通期	前年比 (%)
売上高	9,200	21,600	—
営業利益	0	280	—
経常利益	△10	270	—
当期純利益	△50	160	—
一株あたり 当期純利益	△2.05	6.56	—

○単独ベースの業績予想

単位 (百万円/円)	第二四半 期累計	通期	前年比 (%)
売上高	7,200	17,000	—
営業利益	50	400	—
経常利益	40	390	—
当期純利益	10	300	—
一株あたり 当期純利益	0.41	12.30	—

(注) 決算期変更後の予測については、平成24年4月19日開催予定の第42期定時株主総会において、承認可決されることを条件とします。

7. サガミ中期経営計画について

これからの時代の変化と顧客のニーズをとらえ、次代の成長を確固たるものとするべく中期計画を策定いたしました。「ビジョンの共有」「改革の継続」「営業利益率重視の経営」「グループ経営の強化」を基本方針として掲げ、株主の皆様へ、安定した還元を目指してまいります。

※詳しくは、本日（平成24年3月1日）のプレスリリースをご参照ください。

ディスクロージャーポリシー (Disclosure Policy)

(1) 基本方針

サガミグループは、「食文化を通じて地域社会に奉仕する」「企業を通じてお客様に奉仕する」という経営理念のもと、すべてのステークホルダーに対し、透明性、公平性、継続性を基本に証券取引法及び上場取引所の定める法令・規則を遵守し、タイムリーな情報提供に努めます。

(2) 情報開示の方法

東京証券取引所が定める適時開示規則に該当する情報の開示は、同取引所へ事前説明後、同取引所の提供する適時開示電子情報システム(TDnet: Timely Disclosure Network)に登録し提供しています。TDnet 公開後、すみやかに報道機関に同一情報を提供するとともに、当社ホームページへも掲載いたします。ただしシステムの都合上、これら情報の当社ホームページへの掲載が遅れることもあります。

また、適時開示規則に該当しないその他の情報につきましても、適時開示の趣旨を踏まえて適切な方法により正確かつ公平に開示する方針です。

(3) 業績予想および将来の見通しについて

サガミグループの計画・将来の見通し・戦略などのうち、過去または現在の事実に関する以外は、将来の業績に関する計画や見通しであり、これらは現時点で入手可能な情報による判断に基づいております。

したがって、将来の業績等につきましては、様々なリスクや不確定要素の変動および経済情勢の変化などにより異なる場合があります。

(4) 沈黙期間について

サガミグループは決算情報の漏洩を防ぎ、公平性を確保するため、決算発表日の一ヶ月間前の一定期間を「沈黙期間」としております。この期間は、決算に関する質問への回答やコメント、IR活動を控えることとしております。ただし、この沈黙期間中に業績予想を大きく変動する見込みが発生した場合には、開示規則に従い適宜公表いたします。

なお、沈黙期間であっても、すでに公表されている情報に関する範囲のご質問等につきましては対応いたします。

(5) ディスクロージャーポリシーの遵守

サガミグループは、「企業の社会的責任(CSR: Corporate Social Responsibility)」の観点からもグループの役職員全員に上記のディスクロージャーポリシーを周知徹底し遵守します。